

第 25 期日本学術会議健康・生活科学委員会・臨床医学委員会合同
少子高齢社会におけるケアサイエンス分科会 第 4 回議事録【概要版】

日時 令和 4 年 2 月 23 日(水)15:00～16:00

場所 オンライン会議

議題

- (1)第 2 回シンポジウムの振り返り
- (2)第 3 回シンポジウムについて
- (3)書籍作成について
- (4)その他

出席者：和氣、荒井、小松、西村（正）、西村（ユ）、萱間、新福、森山、山田、山川（書記）

欠席者：寶金、永瀬（敬称略、名簿順）

【資料】

0. 第 4 回 第 25 期少子高齢社会におけるケアサイエンス分科会議事次第
1. 第 2 回ケアサイエンス分科会公開シンポジウム アンケート結果 +質疑応答
2. 第 3 回シンポジウム（案）
3. 「学術会議叢書」の出版について
4. 日本学術協力財団からの回答
5. 意思の表出等の作成手続について

【議事進行】

会議に先立ち、森山美知子委員が 2022 年度の第 42 回日本看護科学学会学術集会の大会長を担うにあたり、「ケアサイエンスの構築に向けて」（仮題）で、本分科会の主旨を反映した内容で西村分科会会長の基調講演、続けてシンポジウムを実施することが伝えられた。

(1) 第 2 回シンポジウムの振り返り

2021 年 12 月 11 日 13:30～16:00 オンライン+オンデマンド開催：参加者約 150 名であったことが報告された。

- 第 2 回シンポジウムのアンケート（回収率良好）の振り返りがあった。参加者は主として大学や研究機関であった。今後どのように一般の参加者を募るかの課題は残るものの、非常に好評であった。今後のシンポジウムのテーマとして、コロナ対応関係、ジェンダー、ケアサイエンス：ケア共同社会、若手異分野のシンポジウムなどが挙げられた。
- 運営については、質疑応答の時間が不足しているという意見があった。指定発言箇所ですライド等を使って質問の準備をまとめた結果、質疑応答が活発になった。シンポジウム直前に相互に話す内容が示されていたことから、質疑応答が上手くかみ合ったと考える。

(2) 第 3 回シンポジウムについて

「日本の中での高齢者」を切り口にしながらのケア体制のアプローチの必要性が話し合われた。高齢者のコロナの受け止め方も明らかになっており、地域によって自粛が過度になり、偏見やフレイルの問題が顕在化したことから、それぞれの解決策を検討する重要性について確認された。その上で下記のような議論がなされた。

- 海外と日本では初期の死者数が全く異なったのは、欧州での初期の死者の多くは高齢者であり、(初期のナーシングホームでの対応の失敗はみられたが)、同時に「高度救命医療を望まず、施設内で亡くなる」など、Advanced Directiveの有無も検討しなければならない。
- このケアサイエンス分科会も看護学分科会とともに第2部の人も多い。しかし第1部、第3部の人も含めて社会実装するために、他分野の人を入れるのが良いのではないか。
- 人選について医療者に偏るのは良くない。学際的な視点で高齢者の医療・ケアに関するシンポジウムであるべきで、ケアサイエンス分科会のシンポジウムの中に通底するということを明確にして進めることが良い。
- 過去2年の日本におけるケアの脆弱性を浮彫にした状態ということで、医療体制を如何に柔軟に変えていくのかという、医療経済学者など医療者以外の意見も取り上げ議論することを提案してはどうか。
- 本来なら医師会にも入ってもらいたいが要検討。高齢者へのコロナパンデミックの影響については、短期の影響と長期の影響も考えるべき。将来的には子どもの心の発育についても発信ができればどうか。
- コロナパンデミックで明らかとなった多くの課題—保健所の位置づけなど、保健医療の仕組みを検討することも重要。医療提供体制が脆弱であったことから、多くの業種や人々が困難に陥った。これら、社会で起こった問題に医療やその周辺の仕組みが応えていない。困っている人が多い中で、何か期待感も持てるような話ができるとうい。
- ケアの仕組みについて話せる他分野の人で、ケアサイエンスを発展させていくための社会制度に限らない多様な仕組みをとの意見もとらげられた。
- 高齢者の医療のあり方に関してのアンチテーゼを社会に啓発している委員会があるので、コロナに関して健康寿命の話も可能。高齢者の介護の話は仕組み(介護保険のあり方)の話もあるので必要である。
- 健康で社会参加ができるということと、高齢者の終末期医療のあり方の2点。介護の社会学、社会福祉学、経済学でもよい。介護については、日本のような介護保険制度がない国は最低賃金で活動し、彼らが感染源になっている。介護問題として、高齢者が見捨てられる。
- 倫理も哲学も様々な議論がある。BCP関連で制度に関わる人で、制度について明るい倫理学関係の人を人選し、メールで議論し、決定することが決まった。老化分科会からの人選は今回は見合わせる。

(3) 書籍について

学術会議叢書は毎年 2 月末までに申請し、採択される。分科会のシンポジウムに登壇した人を書いてもらいたい旨が伝えられた。

(4) その他

次年度活動について第 3 回シンポジウム人選後、日程調整を行う。